【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2006-77491(P2006-77491A)
【公開日】平成18年3月23日(2006.3.23)
【年通号数】公開・登録公報2006-012
【出願番号】特願2004-263770(P2004-263770)
【国際特許分類】
Ｅ０５Ｆ　11/44　(2006.01)
Ｅ０５Ｃ　17/02　(2006.01)
Ｅ０５Ｆ　15/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０５Ｆ　11/44　Ｆ
Ｅ０５Ｃ　17/02
Ｅ０５Ｆ　15/14

【手続補正書】
【提出日】平成19年6月5日(2007.6.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
中間部がベースプレートに回転可能に支持されたリフトアームを有し、該リフトアームの他端でウインドガラスを昇降させるウインドレギュレータと、
開放途中のスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制可能な中間ストッパ機構と、
前記ウインドガラスの開きが一定以上になると、前記中間ストッパ機構にスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制させる中間ストッパコントロール機構とを備え、
前記リフトアームの一端には、ドリブンギヤが固着され、
前記ベースプレートには、前記ドリブンギヤが噛合し、前記ドリブンギヤを駆動するピニオンが設けられ、
前記中間ストッパコントロール機構は、
前記ベースプレートの前記リフトアームが設けられた面と反対側の面で、前記リフトアームの回転軸と、前記ピニオンの回転軸との間に回転可能に設けられたコントロールレバーと、
前記ベースプレートの前記リフトアームが設けられた面と反対側の面に配置され、前記リフトアームの回転軸であって前記リフトアームと共に回転するピンに固定され、前記コントロールレバーの先端部に摺接するカム面でもって、前記コントロールレバーの先端部を押動し、前記コントロールレバーを回転させるカムプレートと、
インナワイヤの一端が前記コントロールレバーに係止され、前記ウインドガラスの開きを前記中間ストッパ機構側に伝達し、前記中間ストッパ機構にスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制させるケーブルとからなることを特徴とするスライドドア。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００１９】
上記課題を解決する請求項１に係る発明は、中間部がベースプレートに回転可能に支持されたリフトアームを有し、該リフトアームの他端でウインドガラスを昇降させるウインドレギュレータと、開放途中のスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制可能な中間ストッパ機構と、前記ウインドガラスの開きが一定以上になると、前記中間ストッパ機構にスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制させる中間ストッパコントロール機構とを備え、前記リフトアームの一端には、ドリブンギヤが固着され、前記ベースプレートには、前記ドリブンギヤが噛合し、前記ドリブンギヤを駆動するピニオンが設けられ、前記中間ストッパコントロール機構は、前記ベースプレートの前記リフトアームが設けられた面と反対側の面で、前記リフトアームの回転軸と、前記ピニオンの回転軸との間に回転可能に設けられたコントロールレバーと、前記ベースプレートの前記リフトアームが設けられた面と反対側の面に配置され、前記リフトアームの回転軸であって前記リフトアームと共に回転するピンに固定され、前記コントロールレバーの先端部に摺接するカム面でもって、前記コントロールレバーの先端部を押動し、前記コントロールレバーを回転させるカムプレートと、インナワイヤの一端が前記コントロールレバーに係止され、前記ウインドガラスの開きを前記中間ストッパ機構側に伝達し、前記中間ストッパ機構にスライドドアの開方向への移動を一定範囲内に規制させるケーブルとからなることを特徴とするスライドドアである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
請求項１に係る発明によれば、前記中間ストッパコントロール機構を前記ベースプレートの前記リフトアームが設けられた面と反対側の面に設けたことにより、リフトアームとの干渉を考慮せずに中間ストッパコントロール機構をウインドレギュレータに設けることができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
よって、従来よりもウインドガラス昇降平面方向のスペースが空き、ドア内部空間のレイアウトの自由度が増す。
カムプレートは、前記リフトアームの回転軸であって前記リフトアームと共に回転するピンに直接取り付けられる。従って、従来のようにリフトアームの側面にカムプレートが取り付けられる場合に比べて、カムプレートを小型化できるので、中間ストッパコントロール機構を小型化できる。